

近江大津宮（667～672）

●いつから大朝日岳や大沼浮島は鬼と恐れられ鬼門に据えられたのか…

いよいよ中臣鎌足とともに大化の革新を起こした中大兄皇子が天智天皇となった大津宮の鬼門を調べてみる。役の小角が開山する前なので朝日岳信仰はまだ存在しなかった時代となる。

●大津宮の中心を探してみた。大極殿はなかったようなので内裏正殿跡を見つけたので、そこからつなげてみた。すると…

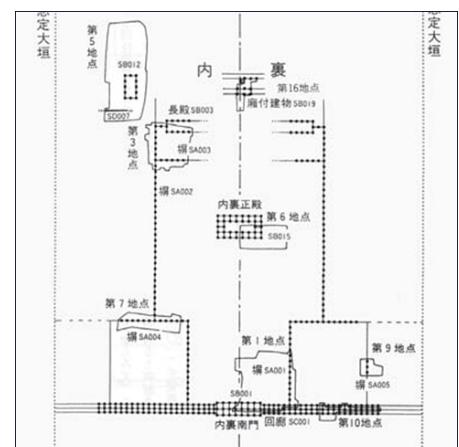
■近江大津宮正殿

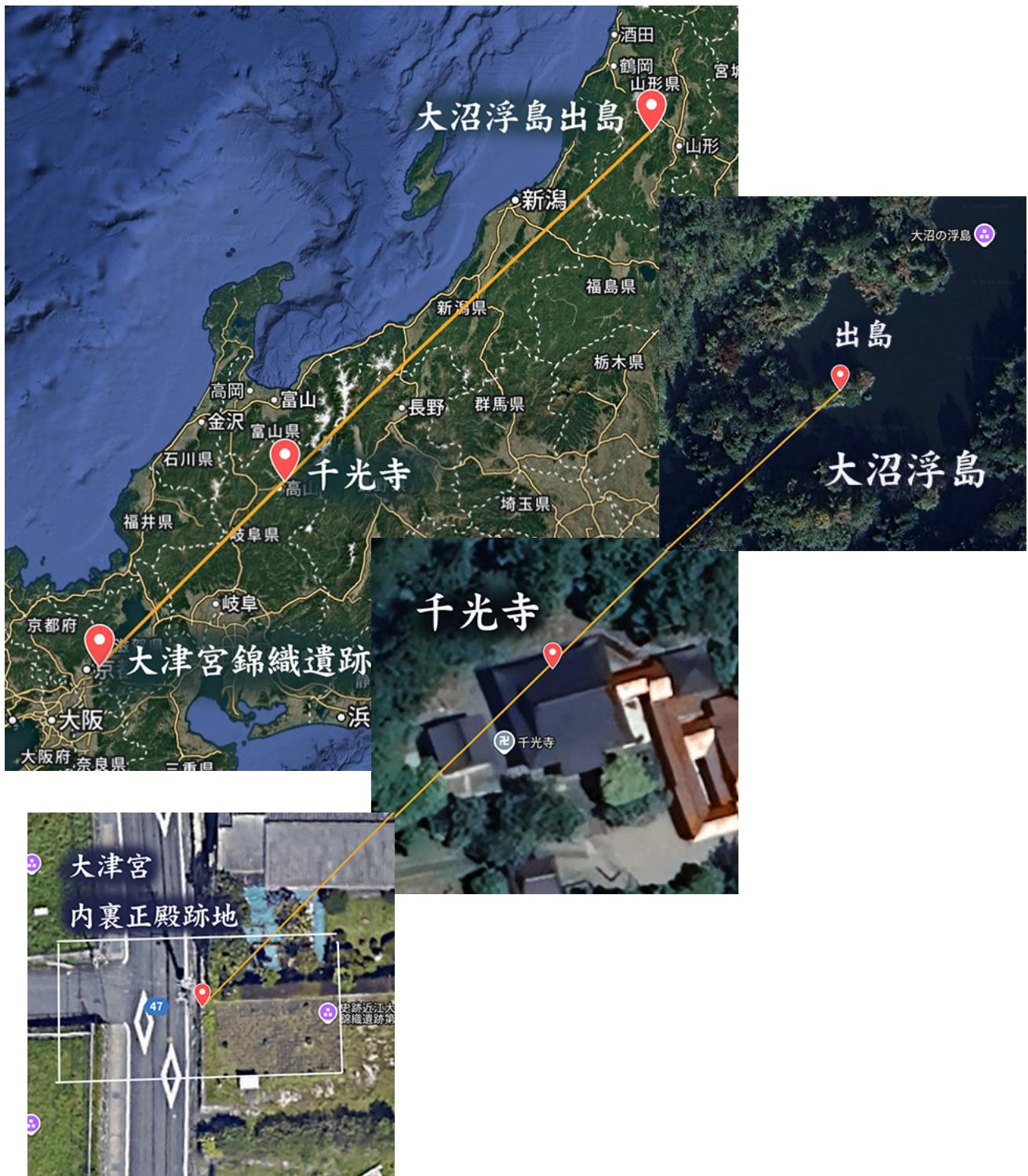
飛鳥時代に天智天皇が近江国滋賀郡に営んだ都。天智天皇6年（667年）に飛鳥から近江に遷都した天智天皇はこの宮で正式に即位し、近江令や庚午年籍など律令制の基礎となる施策を実行。天皇崩御後に朝廷の指導者となった大友皇子（弘文天皇）は天武天皇元年（672年）の壬申の乱で大海人皇子に敗れたため、5年余りで廃都となった。

近江大津宮跡の所在については江戸時代より諸説があり、論争が続いたが、近年に至るまでいずれとも確証はつかめなかった。昭和49年、錦織2丁目の住宅地の一角で行われた発掘調査により、大規模な掘立柱建物跡の一部が発見された。続いて昭和53年2月にこの建物跡に連続する柱穴が発掘され、錦織を中心とする地域であったことが確実視されるようになった。その後10数地点で調査が行われ、大津宮の建物の位置もほぼ確定して、その中枢部の構造も復原されるまでに研究は進展している。

昭和49年に発見された建物跡は、天皇の居所の内裏と政務を行う朝堂院とを分ける内裏南門であることが明らかとなり、復原すると東西7間と、南北2間で、その東西に掘立柱の複廊が付属している。この門の北側が内裏、南側が朝堂院である。門の真北には三方を堀に囲まれた庇付きの建物の内裏正殿がある。この建物は、復原すると東西7間、南北4間の建物になると推定されている。

滋賀県大津市錦織2丁目8-8 史跡近江大津宮錦織遺跡第2地点





■大津宮内裏正殿跡 → 千光寺（岐阜県高山市）→ 大沼浮島（出島）

■飛騨千光寺

千光寺は1600年前、仁徳天皇の時代に、乗鞍山麓に住んでいた両面宿儺が開山したと伝わります。仏教の寺院としては、平安時代に、嵯峨天皇の皇子で弘法大師の十大弟子の一人、真如法親王が当山に登山され、本尊千手觀音を挙げ、法華經一部八巻と二十五条袈裟が奉祀されていたことから袈裟山千光寺と名づけ、自ら開基になりました。それ以来高野山の末寺となり、「飛騨の高野山」とも呼ばれています。また、鎮護国家を祈禱する道場でもあったため、朝廷の帰依を受けて寺運は隆昌を極め、山上に19の院坊を持ち、飛騨国内に30ヶ寺の末寺をかまえていました。

岐阜県高山市丹生川町下保 1553

■大沼浮島（役の小角・弁財天）

湖畔にある大沼浮島稻荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国数32あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳9年（681）役の小角が弟子の観道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稻荷大明神を祀り、弟子観道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行われた。739年には行基が訪れ浮島66個に国名前を付けた。建久4年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。出雲族東王家の富家の人々は出雲から大和の葛城山東側に移り住んだとされる。役の小角の生誕地は奈良県御所市茅原。まさに葛木山の東に位置する。大沼を「大富沼」、大朝日岳の神を「大富権現（弁財天）」と名付けたのも役の小角だろう。役の小角が天孫族秦氏の稻荷神を祀ることはありえない。なにより伏見稻荷よりも古い歴史になってしまう。730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるので、その時に秦族がやってきて主祭神を弁財天（瀬織津姫）から稻荷神に変えたのだと思われる。徐福が連れてきた海童たち秦族は蓬萊島信仰を持つ。自由に動き回る浮島は非常に魅力的だったはず。古い祭祀線はほとんどが稻荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島（弁天島）」（写真）が起点となっている。



●1600年の歴史があり、円空仏で有名な高山の飛騨千光寺とつながった。しかも隆昌を極めのは、鎮護国家を祈禱する道場でもあったために朝廷の帰依を受けていたからだと。きっと大沼に向けての祭祀をおこなっていたに違いない。

●千光寺のある高山は、話題の位山が近くにある。位山は、かつて神々が住まう場所であり、人々の祈り

の中心とされていた山らしい。Youtuber の巫女の原田氏が 4 回にわたり浄化の祭祀登山をして封印を解いたらしく、スピリチュアルな世界では話題となっている山。この位山や関わる水無神社、日輪神社も大朝日岳や大沼浮島に祭祀線はつながっていた。詳しくは別頁「位山」をご覧いただきたい。いずれ千光寺と位山の関係も祭祀線で調べてみようと思っている。

●大朝日岳からの祭祀線はつながっていなかった。やはり開山前なので、まだ朝廷に知られてなかっただろう。湯殿山ご神体岩からもラインをつなげてみたが、やはりライン上に寺社は乗ってこなかった。

●近江大津京でも大沼浮島は鬼（出雲族）の住む脅威な存在だったことがわかった。もしくは、あくまで単純に自然聖地スポットの大沼の神氣を京に引くための護りの祭祀線だろうか。

●付随する三角祭祀線探しはとりあえず保留して、どの時代から大沼浮島がマークされていたのかを優先に祭祀線探しを進めていこうと思う。

2025 年 12 月 17 日 竜天太陽記